

2024. 07

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

# TOYOBO インベスターズガイド 2023年度

東洋紡株式会社 (3101)

「TOYOBO インベスターズガイド 2023年度」をご覧ください、ありがとうございます。



東洋紡株式会社  
代表取締役社長 兼 社長執行役員

竹内 郁夫

### 社会のサステナビリティに貢献する サステナブル（持続可能）な会社を目指して

当社グループは、企業理念『順理則裕』（なすべきことをなし、社会をゆたかにする）を起点として、めざす姿を「素材+サイエンスで人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループになる」としています。また、2022年5月に策定した「サステナブル・ビジョン2030」において、サステナブル・グロース（持続可能な成長）の実現を目指しています。このサステナブル・グロースとは、私たちの製品やサービス・技術を通じ、地球と社会のサステナビリティに貢献し、それによって私たち自身が持続的に成長することを意味しています。

これまで当社グループは、ステークホルダーの皆様からご理解とご支援をいただきながら、幾多の挑戦をし、私たちを取り巻く社会環境の変化に応える製品やサービスの提供に務めて来ました。今この時も、これら喫緊の課題に取り組み、事業を通じて持続可能な社会、すなわち安心してらせる「ゆたか」な社会の実現に貢献することが私たちの使命であり、当社グループの企業価値を持続的に向上させていくことになる、それをリードすることが私のミッションであると、強い決意で臨んでおります。

東洋紡グループは、これから先も人と地球に求められる企業グループであり続けるために、変化を恐れず、変化を楽しみ、変化をつくっていきます。

当社 代表取締役社長 竹内からのメッセージです。

- I. 会社概要 (スライド 4～13)
- II. サステナブル・ビジョン2030、2025中期経営計画 (スライド 14～18)
- III. 2025中期経営計画における拡大事業 (スライド 19～22)
- IV. ESG (環境・社会・ガバナンス) (スライド 23～27)
- V. 株式情報 (スライド 28～29)
- VI. リンク集 (スライド 30～31)

インベスターズガイドの目次です。

## I. 会社概要

- 基本情報
- 企業理念体系「TOYOBO PVVs」
- セグメント別 売上高構成と製品例
- 製品トピックス
- 国内・海外拠点、地域別売上高比率
- 歩み

最初に、会社概要を紹介いたします。

## 基本情報

TOYOBO

社名：**東洋紡株式会社** ※2012年10月1日 東洋紡績株式会社より商号変更

創立：1882年（明治15年）5月3日

設立：1914年（大正3年）6月26日

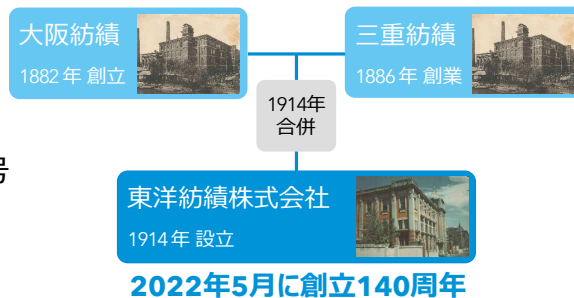
資本金：51,730百万円

本社所在地：大阪府大阪市北区梅田一丁目13番1号

従業員数：10,668名（連結）※2024年3月31日時点

事業内容：祖業は綿紡績

現在は、高機能素材（フィルム、ライフサイエンス、  
環境・機能材、機能繊維分野における各種製品など）  
の製造、加工、販売



コーポレートロゴ刷新（2022年4月～）

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

5

東洋紡の基本情報です。

1882年5月3日に「大阪紡績」が創立され、日本初の民営会社組織による大規模紡績工場として、紡績事業を開始しました。

その後、1914年に「大阪紡績」と「三重紡績」が合併して、「東洋紡績」となりました。

2012年には「東洋紡績株式会社」から「東洋紡株式会社」に商号を変更しました。

2022年5月に創立140周年を迎え、これに合わせて、コーポレートロゴを刷新しました。

タグライン“Beyond Horizons”は、地理的な境界だけでなく、時間的な境界を超えていく。現在見えていることだけでなく、未来に責任を持つ、という意味を込めています。

祖業は「綿紡績」ですが、140年の歴史の中で、時代の変化と世の中の要請に対応しながら、事業ポートフォリオを大きく変えてきました。今ではフィルム、ライフサイエンス、環境・機能材、機能繊維分野における各種製品、いわゆる高機能素材を製造、加工、販売しています。

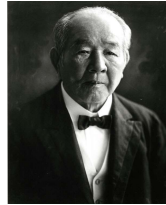
## 企業理念体系「TOYOBO PVVs」

TOYOBO

東洋紡グループの企業理念

『順理則裕』（じゅんりそくゆう）

創立者 渋沢栄一の座右の銘の一つ。  
道徳と経済を一致させることが重要であると説いた創立者の精神を受け継ぎ、  
当社の企業理念としている。



創立者 渋沢 栄一



渋沢栄一が1921年に揮毫した扁額

企業理念体系

「TOYOBO PVVs」

2019年、『順理則裕』をこれからの  
時代に照らして、体系化した。

Principle  
理念

『順理則裕』  
なすべきことをなし、ゆたかにする

Vision  
めざす姿

私たちは、素材＋サイエンスで人と地球に求められる  
ソリューションを創造し続けるグループになります

Values  
大切にすること

私たちは、変化を恐れず、変化を楽しみ、  
変化をつくります

TOYOBO Spirit : 挑戦・信頼・協働

6

当社グループの企業理念は『順理則裕』です。創立者である渋沢栄一の座右の銘の一つです。

1921年4月13日、当時81歳の渋沢は、東洋紡本社で従業員に紡績の歩みと、道徳と経済についての講演を行い、その後、『順理則裕（じゅんりそくゆう：りにしたかえば、すなわちゆたかなり）』を揮毫（きごう）しました。北宋の儒学者・程頤（ていい）によるこの言葉は、「道理に生きることが、すなわち繁栄につながる」と一般に解釈されていますが、当社は、渋沢栄一の「道徳経済合一説」の考えを踏まえ、「なすべきことをなし、ゆたかにする」と、より積極的、より主体的なものに再定義しました。

2019年、『順理則裕』をこれからの時代に照らして、企業理念体系「TOYOBO PVVs」を定めました。

『順理則裕』を根幹となる「理念(Principle)」とし、この理念の下で「なすべきことをなし、ゆたかにする会社になること」を私たちの「めざす姿 (Vision)」とします。私たちが「なすべきことをなし、ゆたかにする」とは、「素材の提供にとどまらず、工夫やアイデアによって新たな価値（＝サイエンス）を創出し、その創造し続ける価値で、バリューチェーン先端に位置する究極のお客さま（＝人と地球）の課題解決（＝ソリューション）を提供する会社」になることです。そして、「めざす姿」を実現するために私たちが大切にすることを、「変化」というキーワードのもと、「挑戦」「信頼」「協働」を3つの柱とした日常の行動指針として、「TOYOBO Spirit ～9つの約束～」を定めています。

## セグメント別 売上高構成と製品例

TOYOBO

### 機能繊維・商事 売上高比率 23.1%

- エアバッグ用基布 ●機能繊維 ●衣料繊維



エアバッグ用基布



衣料繊維

### 環境・機能材 売上高比率 27.8%

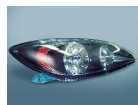
- 樹脂・ケミカル ●環境・ファイバー



工業用接着剤



熱可塑性  
ポリエステルエラストマー



高機能性  
ポリエステル樹脂



海水淡水化用  
逆浸透膜



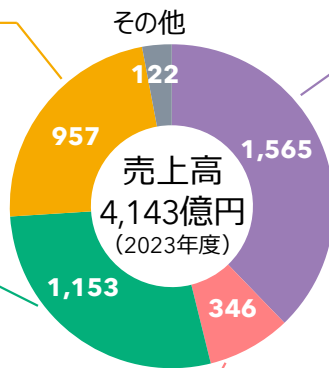
VOC回収装置



スーパー繊維



3次元網状繊維構造体



### フィルム 売上高比率 37.8%

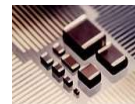
- 工業用フィルム ●包装用フィルム



液晶偏光子保護フィルム



食品包装用



セラミックコンデンサ用  
離型フィルム



リサイクルPETフィルム



二元蒸着フィルム

### ライフサイエンス 売上高比率 8.3%

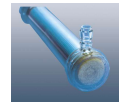
- バイオ ●メディカル ●医薬品製造受託



原料酵素



全自動遺伝子  
解析装置



人工腎臓用  
中空糸膜



コラーゲン使用  
人工骨

セグメント別の売上高構成と製品例です。

フィルムは、売上高構成比率が最も高く、工業用フィルム、包装用フィルムで構成されます。

●工業用フィルム：液晶偏光子用、ディスプレイ用、合成紙、ラベル、セラミック・コンデンサ用などを展開。液晶ディスプレイ向けの偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、セラミックコンデンサ用離型フィルム“コスモピール”、“ピューレックス”など

●包装用フィルム：食品包装を中心に多機能フィルムを展開し、国内でトップクラスのシェア。ペットボトルに使用される熱収縮ポリエステルフィルム“スペーススクリーン”、防湿・鮮度保持に優れた透明蒸着フィルム“エコシアル”など

ライフサイエンスは、バイオ、メディカル、医薬品製造受託で構成されます。

●バイオ：臨床検査に関わる原料酵素、診断試薬、診断システムなどを展開。生化学診断用酵素（血糖、コレステロール、クレアチニンなど）、遺伝子検査用酵素・試薬（新型コロナウイルス検出用など）、診断システム（全自動遺伝子解析装置“GENECUBE”など）

●メディカル：透析膜など治療に関わるマテリアルなどを展開。人工腎臓用中空糸膜、抗体医薬製造用ウイルス除去膜やコラーゲン使用人工骨など

●医薬品製造受託：薬の受託製造を展開。国内外の製薬メーカー向けに注射剤等の治験薬、医薬品製剤の製造を受託

環境・機能材は、樹脂・ケミカル、環境・ファイバーで構成されます。

※主に東洋紡エムシー(株) (2023年4月に事業開始した三菱商事(株)との合併会社)

●樹脂・ケミカル

・エンジニアリングプラスチック：熱可塑性ポリエステルエラストマー“ペルブレ”、成形用熱可塑性ポリエステル樹脂“バイロペット”など（主に自動車部品向け）

・工業用接着剤“バイロン”、“ハードレン”

・光機能材：印刷板材である水現像型感光性樹脂凸版“プリンタイト”、感光性フレキシ版“コスモライト”

●環境・ファイバー

・環境ソリューション：海水淡水化用逆浸透膜、VOC回収装置（VOC：揮発性有機化合物）など

・高機能ファイバー（スーパー繊維）：超高強力ポリエチレン繊維“イザナス”

（用途例：船舶用ロープ、釣糸）、高強力ポリエチレン繊維“ツヌーガ”（用途例：耐切創手袋、冷感寝装品）、世界最高レベルの強度と難燃性を持つPBO繊維“ザイロン”（用途例：建築補強材、自転車スポーク）

・不織布マテリアル：三次元網状繊維構造体“ブレスエアー”（ウレタンフォームに代わるクッション素材、用途は寝装具や車両座席シート）、ポリエステル短繊維（用途例：おむつなど衛生材料）、長繊維不織布スパンボンド（用途例：自動車のトノカバー）、機能フィルター（用途例：キャビンフィルター、空気清浄機など）など

機能繊維・商事は、エアバッグ用基布、機能繊維、衣料繊維、商社機能（東洋紡STC）で構成されます。

エアバッグ用基布・原糸や、スポーツ、インナー、ユニフォーム、その他衣料などを展開。エアバッグはタイ・中国・米国の3極体制、繊維事業は東南アジア・中国・インドなどグローバルに事業を展開



## セグメント別



### リサイクルPET使用フィルム

PETボトルリサイクル樹脂の使用比率を、世界最高レベルの約80%まで高め、CO<sub>2</sub>排出量を約20%削減するフィルム



### 液晶TVの偏光子保護フィルム

液晶から発せられる光をより自然光に近い状態へ変換する超複屈折ポリエステルフィルム。

液晶TV市場のシェア 約60% (当社推定)



### 生化学診断用の原料酵素

血糖（糖尿病）、コレステロール（動脈硬化）、クレアチニン（腎機能）など。

原料酵素市場のシェアは約25%、世界2位 (当社推定)



### 海水淡水化用の逆浸透膜

耐塩素性に優れ、微生物汚染を防ぐ。高温高濃度海水の中東湾岸諸国で高品質の生活用水を製造。

同地域のシェア 約20% (当社推定)



### 溶剤を回収するVOC回収装置

国内外に1,500台以上納入し、繊維状活性炭を使用した吸着回収式の装置としてはトップシェア (当社推定)。

LIBセバレータ工場へ導入が進む

## 新技術・新製品 (2023年度リリース分)

### > ビトリマー (“Vitrimers”)\*の実用化

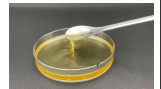
\*再成形性・自己接着性・自己修復性などを有する高機能なポリマー。  
“Vitrimers”はFONDS ESPCI PARISの登録商標です。



- ・フレキシブルプリント基板などでの電子部品の接着用途。データ通信の高速化、自動車の電装・電動化で需要が拡大
- ・溶剤フリーで常温流通可能な環境配慮型の高耐熱接着シート
- ・2024年前半サンプル提供、製造販売開始予定

### > MEL (マンノシルエリスリトールリピッド)

- ・NEDO「バイオものづくり革命推進事業」実施予定先に採択。微生物による天然由来の界面活性剤 MEL の利用分野拡大に向けた革命的生産システムの開発を開始
- ・目指す利用分野
  - ・農業用展着剤 (化学農薬の使用量低減)
  - ・飼料配合剤 (牛のゲップに含まれるメタンガスの排出量低減)
  - ・衛生材のコーティング剤



### > エクソソーム精製キット“CATAROSEV”の開発

- ・微小な孔とイオン交換機能を持つ精製膜と、洗浄液や溶出液などで構成される
- ・体内循環性を有する高純度エクソソームの高効率な精製・回収に成功
- ・医薬品や化粧品などへのエクソソームの応用を目指す企業や研究機関向けに、サンプル提供の準備中



8

東洋紡は多様な高機能製品を扱っています。  
シェアが高い・特長がある等の5つの製品を紹介します。  
製品サイトも是非ご参考ください。  
<https://www.toyobo.co.jp/products/>

また、2025中期経営計画（2022～2025年度）の施策の1つ「未来への仕込み」において、4つのコア技術を融合させた3つの領域におけるイノベーション創出に挑戦しています。

2023年度にリリースされた3つの新技術・新製品を紹介いたします。

ビトリマー (“Vitrimers”)の実用化

[https://www.toyobo.co.jp/news/2023/release\\_1558.html](https://www.toyobo.co.jp/news/2023/release_1558.html) (2023年11月29日)

MEL (マンノシルエリスリトールリピッド)

[https://www.toyobo.co.jp/news/2024/release\\_1578.html](https://www.toyobo.co.jp/news/2024/release_1578.html) (2024年2月6日)

エクソソーム精製キット“CATAROSEV”の開発

[https://www.toyobo.co.jp/news/2023/release\\_1540.html](https://www.toyobo.co.jp/news/2023/release_1540.html) (2023年10月19日)

<https://www.toyobo.co.jp/discover/materials/catarosev/>

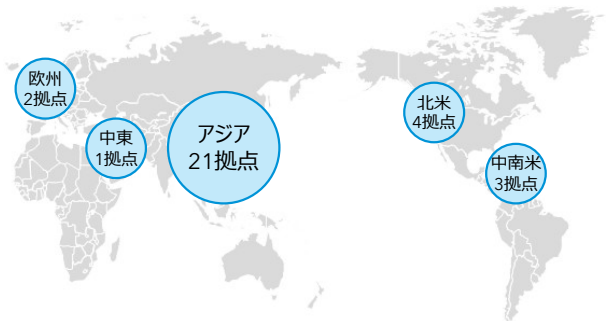
## 国内・海外拠点、地域別売上高比率

TOYOBO

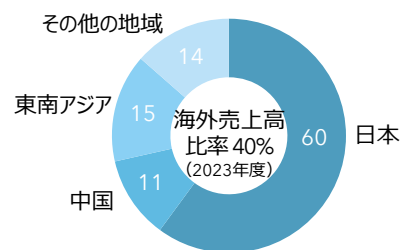
### ◆ 国内拠点 (2024年4月1日時点)



### ◆ 海外拠点



### ◆ 地域別売上高構成比率 (%)



国内・海外の拠点、および、地域別の売上高比率のグラフです。

国内は、大阪に本社があり、8カ所に生産拠点があります。  
また、海外には16ヵ国・地域に生産・販売拠点を保有しています。

海外の売上高比率は約40%となります。

## 歩み① 東洋紡の変化と技術の進化

TOYOBO



10

東洋紡の変化と技術の進化について、紹介いたします。

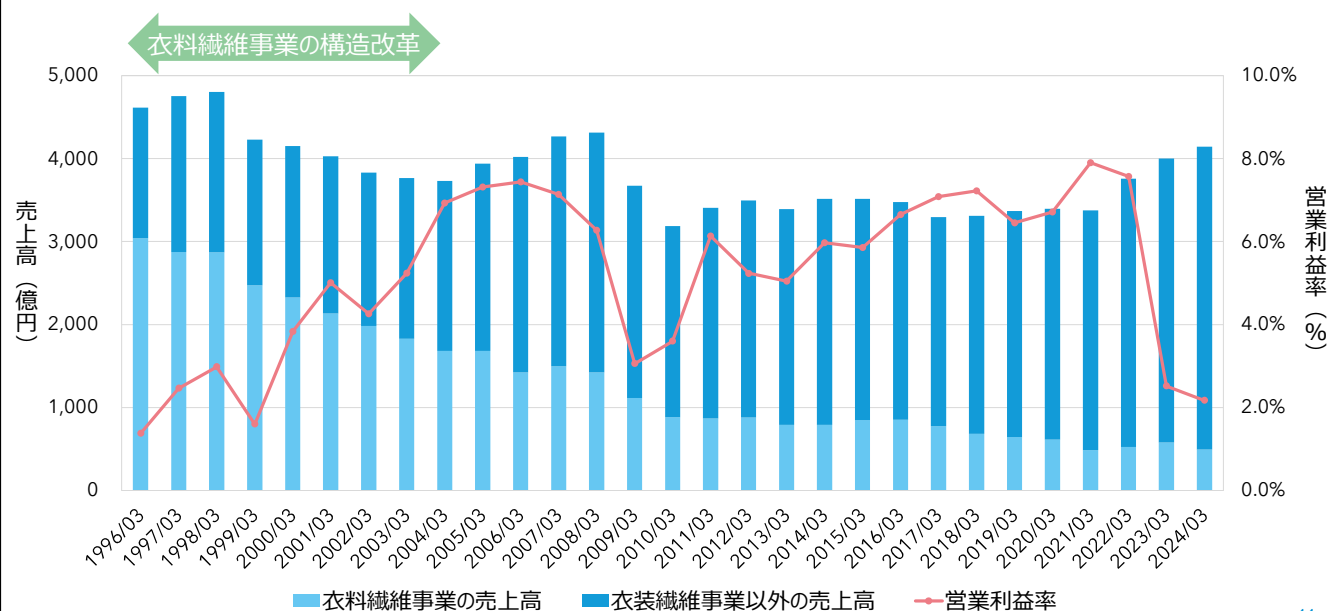
祖業の天然繊維の紡績事業に始まり、1920年代にレーヨン事業に進出します。その後、1956年に合成繊維事業を開始。アクリル繊維に始まり、ポリエステル繊維、ナイロン繊維へと広げました。さらに、重合・変性、成形加工の技術を用いて、フィルム事業やプラスチック事業、機能膜事業などへ進出し、現在のソリューション事業に続いています。

また、レーヨンの原料であるパルプ事業における水の環境汚染対策として、1948年に酵母培養による廃液処理の研究を開始しました。これが現在のバイオ事業に繋がっています。

現状に満足せず、常に成長を続けるために変化を恐れず、変化を楽しみ、変化をつくる。私たちは、時代をけん引するカテゴリー・リーダーをめざし、安全安心なオリジナリティあふれるモノづくりで、人と地球のために、新しい変化を生み出していきます。

## 歩み② 収益性の推移

TOYOB0



11

1995年度以降の売上高と営業利益率の推移です。

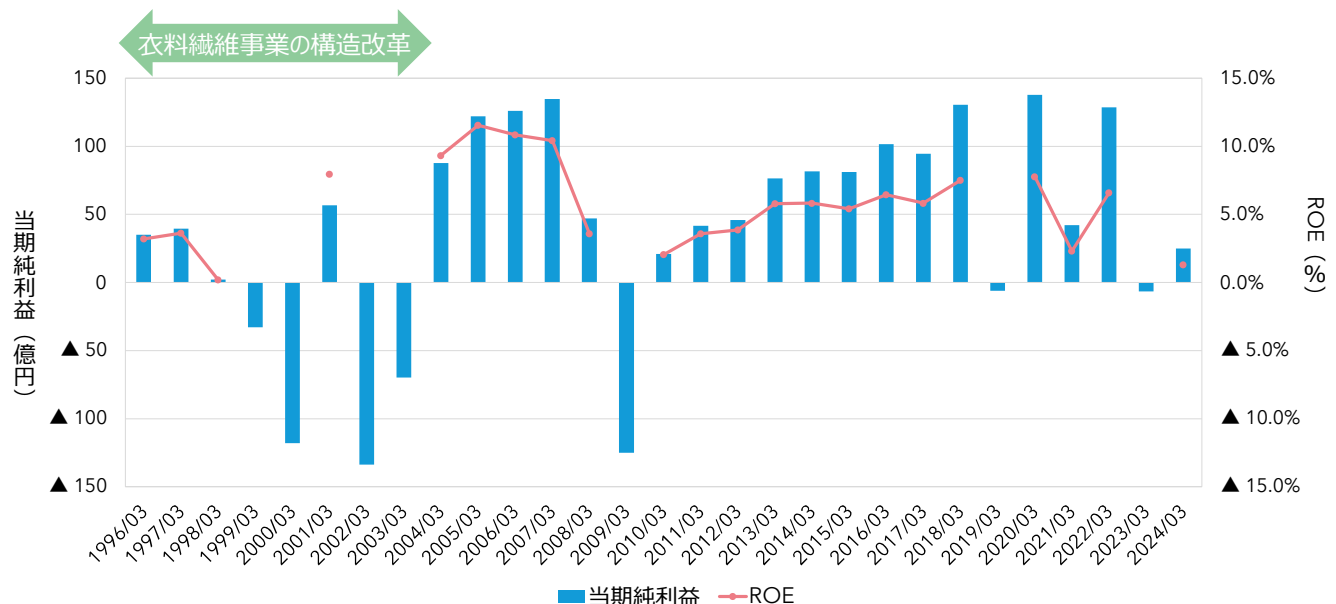
1990年代後半から2000年代前半まで、事業環境が厳しい中、時代性を失った一部の衣料繊維事業の構造改革をしながら、フィルムや高機能素材など、より付加価値の高い事業・製品にシフトしてきました。それにともない、収益性が大きく向上しました。

1995年度は、衣料繊維事業が全体の売上の60%を占めていましたが、2020年度以降は、フィルムや高機能素材などの事業が80%以上を占めるに至りました。

2022年度、2023年度は、原燃料価格高騰による交易条件の悪化、包装用フィルムや不織布マテリアルの業績悪化に加え、事業拡大や基盤整備のための固定費増加もあり、収益性が大きく低下しました。

### 歩み③ 資本効率の推移

TOYOB0



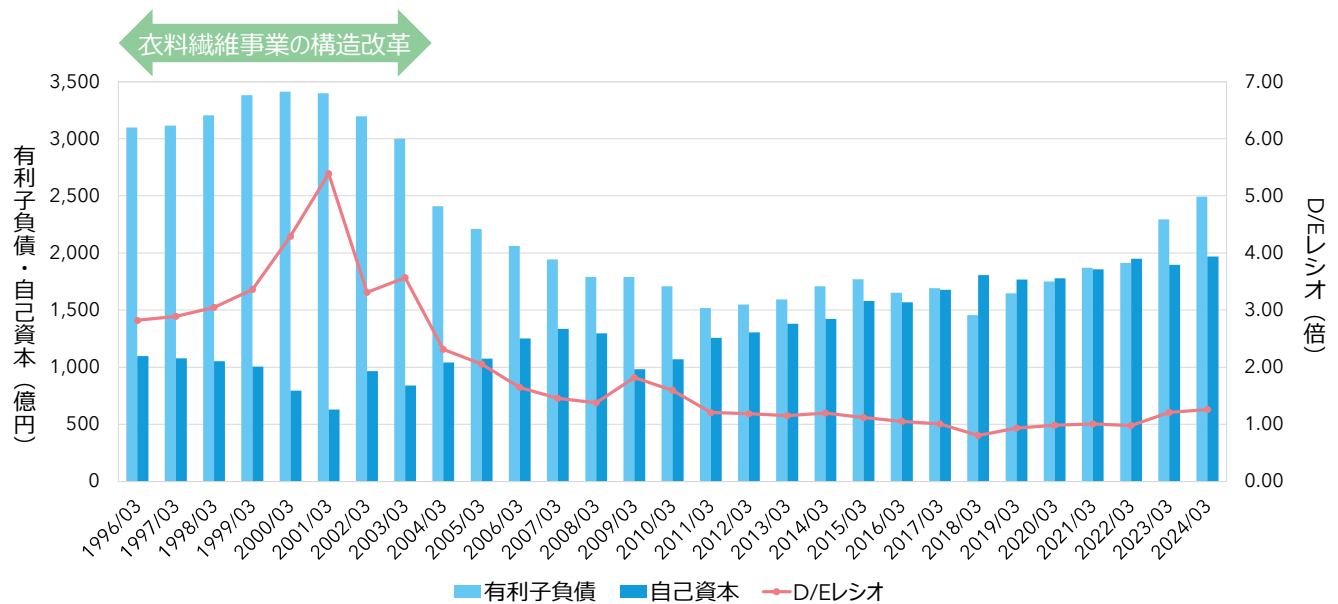
12

1995年度以降の当期純利益とROEの推移です。

衣料繊維事業の構造改革期を経て、近年、ROEは5~10%を推移しています。  
 なお、2008年度はリーマンショック、2018年度は工場火災発生、2020年度はアクリル繊維の減損のため、当期純利益が落ち込みました。

## 歩み④ 財務体質の推移

TOYOBOK



13

1995年度以降の有利子負債と自己資本、D/Eレシオの推移です。

衣料繊維事業の構造改革期に、有利子負債が増加しましたが、その後、自己資本の積み上げや有利子負債の返済を通じて、D/Eレシオが1.0倍前後で推移しています。

## Ⅱ.サステナブル・ビジョン2030、2025中期経営計画

- サステナブル・ビジョン2030
- 2025中期経営計画（2022～2025年度）

当社は、2022年5月に、長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」および「2025中期経営計画（2022～2025年度）」を発表しました。



# サステナブル・ビジョン2030、 2025中期経営計画（2022～2025年度）①

TOYOBOKU

長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」、2025中期経営計画（2022～2025年度）を2022年5月に策定

## サステナブル・ビジョン2030の全体像



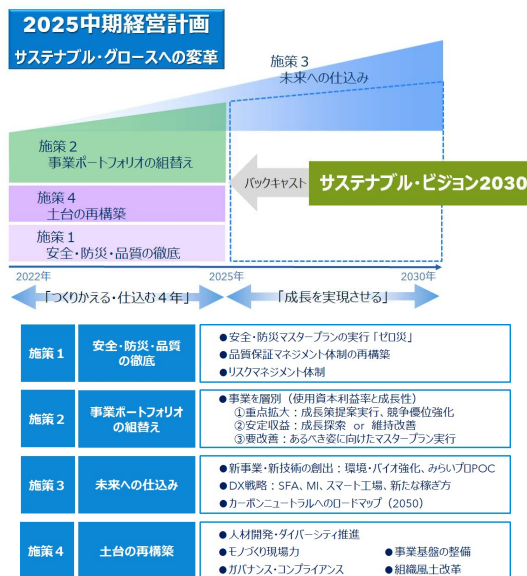
## 2030年のありたい姿

安心してらせる「ゆたか」な社会の実現と企業価値向上のスパイラルアップ

- ① 事業を通じて社会の課題解決に貢献
- ② 持続可能な成長（しっかりした土台・未来への成長軌道）
- ③ 現場が主役（安全・安心な職場環境、誇りややりがい、自己成長）

| サステナビリティ指標           | 財務指標      |
|----------------------|-----------|
| 重大インシデント             | ゼロ        |
| 従業員エンゲージメントスコア       | 70%以上     |
| GHG排出削減 2013年度比      | 46%以上     |
| 主力事業*における原材料のグリーン化比率 | 60%       |
| 2050年度カーボンニュートラル     | ROE 9%以上  |
|                      | ROIC 7%以上 |

## 2025中期経営計画の基本方針と4つの施策



15

「サステナブル・ビジョン2030」は、今後の事業環境の変化を想定し、企業理念『順理則裕』（なすべきことをなし、ゆたかにする）を基軸として、「2030年のありたい姿」と、サステナビリティ指標およびアクションプランを示すものです。この長期ビジョンでは、「（社会の）サステナビリティに貢献するサステナブルな会社」の実現を目指し、企業文化の「持続可能な成長（サステナブル・グロース）」への転換を図ります。

世界の課題である「持続可能性（サステナビリティ）」の観点から、より具体的に「自分たちはどのような分野で、どのようにサステナビリティに貢献していくのか」を明確にしました。

当社の「2030年のありたい姿」とは、5つの社会課題の解決を通じて人々が安心してらせる「ゆたか」な社会を実現し、結果として自社の企業価値も向上させる、スパイラルアップしている状態です。

「2025中期経営計画（2022～2025年度）」は、2025年を「サステナブル・ビジョン2030」で掲げる目標達成に向けた通過点として、当該期間を「つくりかえる・仕込む4年」と位置づけています。「安全・防災・品質の徹底」「事業ポートフォリオの組替え」「未来への仕込み」「土台の再構築」の4つの施策の取組みを通じて、「サステナブル・グロース」への変革を図ります。



## 2025中期経営計画（2022～2025年度）②

TOYOBBO

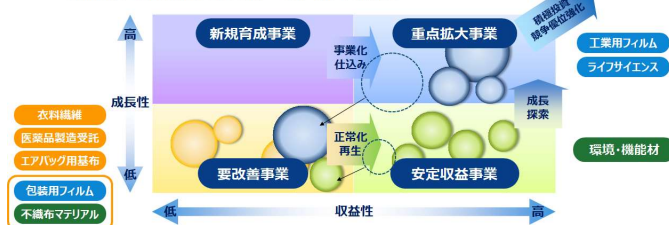
### 前半（2022～2023年度）の振り返り

- 稼ぐ力の低下 営業利益 200～250 億円/年 → 2023年度 90 億円
  - ・ 交易条件悪化（限界利益率低下）× 数量減 + 固定費・経費増（攻め・守り）
  - ・ 包装用フィルム、不織布マテリアルの業績悪化 → 事業ポートフォリオの位置づけ変化
  - ・ 投資効果、成長策の発現（新機台立上げ）遅れ
- 大型投資先行もあり、財務体質悪化 D/Eレシオ 1.0 倍以下 → 2023年度 1.2 倍超に
  - ・ 稼ぐ力の低下（＝営業キャッシュ・フロー減）+ 大型投資（フィルム、ライフサイエンスほか）
  - フリー・キャッシュ・フローマイナス（有利子負債増）
  - ・ 事業ポートフォリオ組替えの遅れにより、総資産、使用資本が増加
- 「安全・防災、品質の徹底」、「未来への仕込み」、「土台の再構築」は着実に前進
  - ・ 安全・防災、品質の徹底：ゆるぎない信頼に向けて着実に改善
  - ・ 未来への仕込み：事業開発は主力テーマの絞り込み、DX進捗、カーボンニュートラル対応
  - ・ 土台の再構築：人材への投資（研修等）、インフラ整備、組織風土改善傾向

### 事業ポートフォリオの位置づけ変化

「収益性」「成長性」の2軸で各事業を4象限に評価・層別

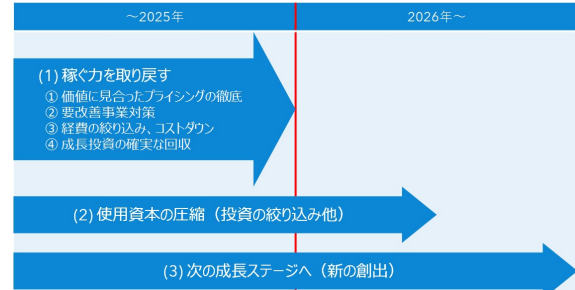
- 収益性：使用資本利益率（ROCE）＝営業利益 ÷ 使用資本 ※ハードルレート 6.5% 目安
- 成長性：年平均成長率（CAGR）※ハードルレート 4.5% 目安



2つの事業の収益悪化

※ハードルレートだけでなく、定性情報も含めて、「安定収益事業」が「要改善事業」かを見極める。  
※当社グループ全体の資本効率性指標はROIC、各事業の管理指標はROCE

### 後半以降（2024年度～）のアクション



### 後半以降のアクション(1) 稼ぐ力を取り戻す | 基本方針

|                    |                                                                                                                                 |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 価値に見合ったプライシングの徹底 | ・ 経営によるプライシングの実行フォロー：コストベース → パリューベースの価格設定へ                                                                                     |
| ② 要改善事業対策          | ・ 包装用フィルム：生産体制見直し、環境製品加速、海外拡販<br>・ 不織布マテリアル：国内事業再編、生産体制の見直し<br>・ エアバッグ用基布、医薬品製造受託：黒字化ロードマップ遂行<br>・ 衣料繊維：2023年度黒字化達成 → 資産効率改善の追求 |
| ③ 経費の絞り込み、コストダウン   | ・ 事業所・工場のコスト競争力強化<br>・ 間接材費のコストダウン<br>・ 業務効率・生産性向上                                                                              |
| ④ 成長投資の確実な回収       | ・ 成長投資、開発投資の効果実現による利益拡大                                                                                                         |

16

2025中期経営計画の前半（2022～2023年度）を振り返ると、当社グループを取り巻く経営環境は、想定を大きく上回るスピードと大ききで変化しています。このような中で、当社グループの事業においては、原燃料価格高騰による交易条件の悪化、サプライチェーンにおける在庫調整の長期化による数量減に加えて、事業拡大や基盤整備のための固定費の増加もあり、稼ぐ力が大きく低下しました。一方で、成長事業への大型投資の先行もあり、有利子負債が増加しました。

施策2「事業ポートフォリオの組替え」では、フィルム事業およびライフサイエンス事業は「重点拡大事業」、環境・機能材事業は「安定収益事業」に位置づけられていましたが、事業環境変化により収益性が低下している包装用フィルム事業と不織布マテリアル事業の位置づけを「要改善事業」に変更しました。

2025中期経営計画の後半以降のアクションはまず「(1)稼ぐ力を取り戻す」です。

①価値に見合ったプライシングの徹底：製品価格の設定については、コストベースから価値ベースでの実施を徹底していきます。

②要改善事業対策：全ての要改善事業において、2025年度までに、事業の正常化・黒字化をめざします。

③経費の絞り込み、コストダウン：全社プロジェクトによって、当社グループ全体の業務改革を推進していきます。

④成長投資の確実な回収：フィルム、ライフサイエンス、環境・機能材など成長分野での設備投資を計画通りに立ち上げ、確実に収益拡大につなげていきます。

## 2025中期経営計画（2022～2025年度）③

TOYOBO

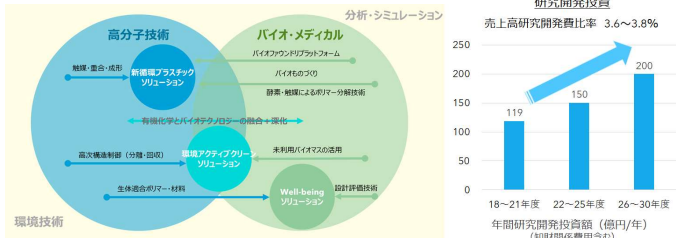
### 後半以降のアクション(1)④ 成長投資の確実な回収

| セグメント    | 内容                                                                            | 投資金額<br>(億円、億円)               | 投資効果実現時期(年度) |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------|
| フィルム     | ・ OPPフィルム生産設備(犬山)<br>・ セラコン用離型フィルム加工設備2号機(敦賀)<br>・ セラコン用離型フィルム製造設備(宇都宮)       | 70<br>60 <sup>*1</sup><br>200 |              |
| ライフサイエンス | ・ 生化学診断薬用原料酵素製造設備(敦賀)<br>・ PCR検査試薬・遺伝子診断薬用原料製造設備(敦賀)<br>・ 人工腎臓用中空糸膜一貫生産工場(秋田) | 70<br>65<br>50                |              |
| 環境・機能材   | ・ 高機能樹脂製造設備(高砂)<br>・ 高機能樹脂製造設備(岩国)                                            | 80 <sup>*2</sup>              |              |

\*1: 1号機との投資金額 \*2: 合併会社の総投資額

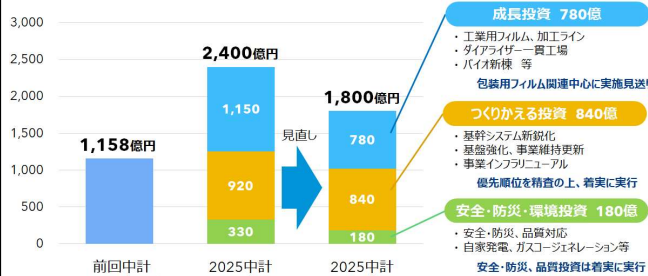
### 後半以降のアクション(3) 次の成長ステージへ

コア技術の融合による新領域への挑戦



### 後半以降のアクション(2) 使用資本の圧縮 | 投資の絞り込み

設備投資を見直し、総額 600 億円圧縮 (2024年5月)



### 3領域での新の創出

|                    |                                                                                                                                                                                           |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新循環プラスチックソリューション   | リニューアブルポリマーへの転換<br>・ 使用済プラスチックの高効率なケミカルリサイクル (例: アルプラスチックン設立、アネロテック社の技術活用)<br>・ PEF (ポリエチレンテレフタレート) など 100% バイオマス新プラスチック                                                                  |
| 環境アクティブクリーンソリューション | 環境配慮型新素材、サービスの提供<br>・ 溶剤フリー、常温流通可能な耐熱接着素材 "Vitrimer" の実用化<br>・ FOC (正浸透膜) 使用による省電力海水淡水化<br>・ BOC (高濃度塩水処理) による、省エネルギー、製塩、排水処理、有機物回収への展開<br>・ 有機薄膜太陽電池材料: 膜の省エネ性能、薄型・室内で、世界最高レベルの変換効率を実現   |
| Well-beingソリューション  | Unmet Medical Needsに応える医療用素材、機器<br>・ 急性血液浄化膜: 腹水透過膜 (CART)、敗血症の治療器<br>・ 生体適合性ポリマー: 樹脂・金属・医療機器等に、抗血栓性、炎症反応抑制、アンチバイオフィラミング性等付与<br>次世代医療への価値提供<br>・ "Catarose": エクソソームを高効率・高純度・高収率に回収する精製キット |
| 領域横断               | 「バイオものづくり」による、脱石油素材、持続可能な素材提供<br>・ MEL: 微生物が作る界面活性剤の農業用界面活性剤、飼料配合剤、衛生材のコーティング剤などの提供<br>※ NEDO「バイオものづくり」新事業推進事業に実施先に採択                                                                     |

\*Vitrimer (EPFONDS ESPCI PARIS) の登録商標です。

17

2025中期経営計画の後半以降のアクションのうち、「(1)④成長投資の確実な回収」に関して、主な成長投資は表のとおりです。

「(2)使用資本の圧縮」については、使用資本の適正化のために、「投資の絞り込み」「ポートフォリオ改革」「非事業用資産の売却」の対策を講じていきます。このうち、「投資の絞り込み」について、2025中期経営計画策定時の設備投資計画から投資案件を見直すことで、総額600億円を圧縮します。成長投資は、事業ポートフォリオの位置づけが変わった包装用フィルム事業関連の投資案件を中心に見送ることにより1,150億円から780億円に、つくりかえる投資は、優先順位の精査により920億円から840億円に、安全・防災・環境投資は、安全・防災、品質に関する投資は優先順位を下げることなく着実に実行しながら330億円から180億円に絞り込み、資本効率を重視した経営を進めていきます。

「(3)次の成長ステージへ」については、4つのコア技術「高分子技術」「バイオ・メディカル技術」「環境技術」「分析・シミュレーション技術」を融合させ、3つの領域におけるイノベーション創出に挑戦しています。3領域は、リニューアブルポリマー100%を目標とする「新循環プラスチックソリューション」、水・空気などの環境浄化やCO<sub>2</sub>の回収・利用に貢献する「環境アクティブクリーンソリューション」、人々が健康に寿命を全うできる社会をめざす「Well-Beingソリューション」です。主な「新の創出」テーマを表に示します。また、年間研究開発投資額は、売上高比率3.6～3.8%を目安としています。

# 2025中期経営計画（2022～2025年度）④

TOYOBOKU

## 財務目標

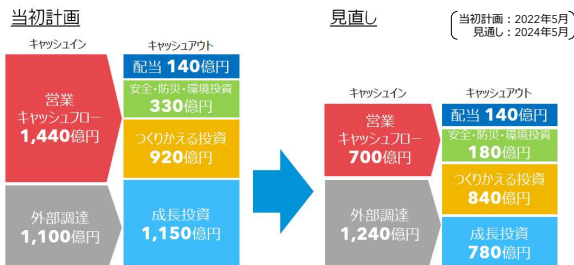
|                                   | 2021年度<br>実績 | 2022年度<br>実績 | 2023年度<br>実績 | 2025年度<br>見直し | 2025年度<br>当初計画 |
|-----------------------------------|--------------|--------------|--------------|---------------|----------------|
| 売上高（億円）                           | 3,757        | 3,999        | 4,143        | 4,500         | 4,500          |
| 営業利益（億円）                          | 284          | 101          | 90           | 250           | 350            |
| 営業利益率（%）                          | 7.6          | 2.5          | 2.2          | 5.6           | 7.8            |
| EBITDA（億円） <sup>*1</sup>          | 485          | 291          | 288          | 510           | 630            |
| 当期純利益（億円）                         | 129          | ▲ 7          | 25           | 90            | 150            |
| ROE（%） <sup>*2</sup>              | 6.8          | -            | 1.3          | ≥ 4.5         | ≥ 7.0          |
| ROIC（%） <sup>*3</sup>             | 5.1          | 1.7          | 1.3          | ≥ 4.0         | ≥ 5.0          |
| D/Eレシオ（倍）                         | 0.98         | 1.21         | 1.26         | < 1.40        | < 1.20         |
| Net Debt / EBITDA倍率 <sup>*4</sup> | 3.4          | 5.8          | 7.5          | < 5.0         | < 5.0          |
| 設備投資（2022～2025年度 累計）（億円）          |              |              |              | 1,800         | 2,400          |

<sup>\*1</sup> 営業利益＋減価償却費（のれんを含む）<sup>\*2</sup> 当期純利益÷期末平均自己資本

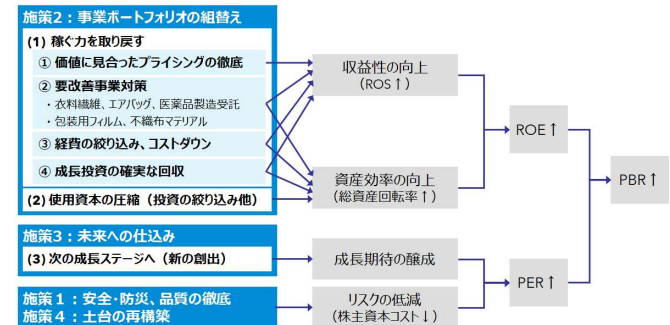
<sup>\*3</sup> NOPAT÷（有利子負債＋純資産）<sup>\*4</sup> （有利子負債÷純資産）

## キャッシュフロー・アロケーション

設備投資：安全・防災・環境対応を優先し、営業CF減に応じて見直し



## 資本コストや株価を意識した経営 | ROE、ROICの改善



## 株主還元

### 2025中期経営計画期間の方針

安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを勘案した上で、総還元性向 30%を目安とする（自己株式の取得も選択肢に含む）

2025中期経営計画の重要財務指標には、持続的な成長に向けて、積極的な投資マインドを社内に形成するため、営業利益に減価償却費を加えたEBITDAを加えるとともに、資本効率を重視した経営を推進する目的で、ROICを加え、成長性と効率性の両側面から経営資源の最適な配分に努めます。また、先行投資を実施していくため、D/Eレシオ目標を1.2倍未満とし、キャッシュ・フローの創出力と有利子負債とのバランスを失することなくコントロールするため、Net Debt/EBITDA倍率 4倍台を目安にして、財務状態を安定的に管理する方針です。2025中期経営計画の前半では、営業キャッシュ・フローの減少に加え、成長事業への大型投資による投資キャッシュ・フローの増加や、事業ポートフォリオ組替えの遅れによる使用資本の増加によって有利子負債が増加し、財務状態が悪化しました。これらを踏まえ、2025年度の財務指標見通しを表の通りとし、キャッシュフロー・アロケーションを見直しました。

当社グループでは、資本コストを意識した経営を推進しています。現状、PBRが1.0倍を下回る状態にあることを重く受け止め、ROE、ROICをいかに高めるかが重要課題と認識しています。中計施策の1つ「事業ポートフォリオの組替え」を推進することにより、グループ全体の資産効率、収益性の改善を通じてROEを向上させるとともに、「未来への仕込み」において、成長の具体策と成果を示し成長期待を高めていくことに加えて、「安全・防災、品質の徹底」や「土台の再構築」によりリスクの低減を進めていくことで、PBRの向上を図ってまいります。なお、当該期間中の株主還元は、総還元性向30%を目安としています。

### Ⅲ. 2025中期経営計画における拡大事業

- フィルム事業
- ライフサイエンス事業
- 環境・機能材事業

「2025中期経営計画（2022～2025年度）」における拡大事業である「フィルム事業」、「ライフサイエンス事業」、「環境・機能材事業」について、紹介いたします。



# フィルム事業

TOYOBO

## 主要製品

### 工業用フィルム

素材：ポリエステルなど

#### 液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”

- ・超複屈折ポリエステルフィルム・複屈折による着色（虹むら）を解消
- ・強み：ハンドリング性（寸法安定性、低い反り性）、価格競争力
- ・液晶TVシェア：約60%（当社推定）・今後の展開：薄肉化の追求

#### セラコン用離型フィルム

- ・強み：製膜からコーティングまで一貫製造、優れた平滑性を実現する製膜技術、汎用からハイエンドまでラインアップ
- ・最終製品：車載用途、スマホ用途に展開
- ・シェア：約25%（当社推定）グローバルでトップシェア

### 包装用フィルム

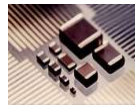
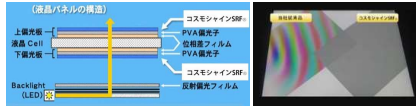
複数素材を保有：ポリエステル、ナイロン、ポリプロピレン、ポリエチレン  
用途：食品包装用フィルム、缶ラミネートフィルム など  
シェア：国内総合トップ

#### 透明蒸着フィルム“エコシールド”

- ・アルミナとシリカの二元蒸着。柔軟性とバリア性の両立
- ・食品の賞味期限を延ばす・市場：グローバルで10%/年の成長率

#### リサイクルPETフィルム“サイクルクリーン”

- ・リサイクル樹脂を80%以上使用、CO<sub>2</sub>排出量を約20%削減



## 成長戦略 世界トップのグリーンフィルムメーカーへ

### 高性能フィルムの増産・拡大

※2021年度対比

- セラコン用離型フィルム
  - ・インラインコート新設備
  - ・コーター2号機
  - ・水平リサイクル
- 液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”
  - ・薄肉化、既存生産ライン改造による増産体制の確立



宇都宮工場に新設する製造設備（イメージ）

### 新規高性能フィルムの開発

- PENフィルムの実装拡大（風力発電（絶縁）、燃料電池セル用シール材）
- ポスト“コスモシャインSRF”  
ポストセラコン用離型フィルムの開発（半導体工程、環境対応、フォルダブル）

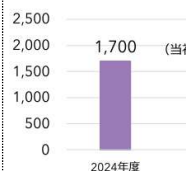


新型「MIRAI」の燃料電池ユニット

### 脱炭素・循環型社会に貢献

- 新市場への展開  
～環境配慮製品～
- ・缶塗装をラミネートフィルムに。ラベル用剥離紙を剥離フィルムに
- グリーンフィルムの展開拡大
  - ・高剛性フィルムによる減容化で省資源（OPPフィルム新機台稼働）
  - ・バイオ樹脂100%のフィルム
  - ・リサイクル原料使用フィルム
  - ・自社内・外の使用済み加工フィルムのリサイクル

### 売上高目標（億円）



### 営業利益目標（億円）



※2025年度見通しは、2024年5月時点（当初計画は2022年5月時点）

20

フィルム事業の主要製品、成長戦略です。

工業用フィルムの製品は、液晶TVの偏光子保護フィルム、セラミックコンデンサの製造工程中で使うポリエステル離型フィルムのほか、ディスプレイ用ベースフィルム、ポリエステル系合成紙、ラベルフィルムがあります。

また、包装用フィルムは複数の素材を保有し、ポリエステルは易カット性、ナイロンは破れにくい、ポリプロピレン・ポリエチレンはシール性などの特長があります。これらの素材を組み合わせることで複数の機能を実現しています。用途としては、食品包装用フィルム、缶ラミネートフィルムなどがあります。

今後、「人」中心のデジタル社会実現へ貢献する製品として、液晶偏光子保護フィルム、セラミックコンデンサ用離型フィルムを中心に拡販していきます。

●液晶偏光子保護フィルムは、面積シェアをさらに高めていく予定です。今後、フィルムの薄肉化に加え、既存生産ライン改造により更なる増産体制を確立していきます。

●セラミックコンデンサ用離型フィルムは、市場の成長に応じて、2024年度には、ハイエンド品を原反からコーティングまで1工程で製造する、当社独自の設備を新設・稼働予定です。

また、当社は他社に先駆け、10年以上前からリサイクル・減容化（薄肉化）という環境に配慮した製品開発に取り組んできました。現在、さらに省資源・循環型社会に貢献する製品を増やす取組みを進めています。

# ライフサイエンス事業

TOYOBO

## 主要製品

### バイオ

強み：高機能タンパク質を作る技術

**遺伝子検査用原料酵素・研究用試薬・診断システム**

・原料酵素例：PCR酵素

→高速増幅、コピーが正確、夾雑物に対して高耐性

シェア：国内約 15% ← コロナ前約 5%（当社推定） 国内トップ3

・研究用試薬例：新型コロナウイルス検査キット→短時間での検査可能

**生化学診断用原料酵素**（血糖、コレステロール、クレアチニンなど）

・微生物の遺伝子組換え技術→機能改変・大量生産、品揃えが多い

・シェア：約25%（当社推定）、世界2位 ・海外売上高比率：約70%

### メディカル

中空糸分離膜：断面に微細な孔を形成した分離膜

強み：製膜技術（孔径の制御・断面構造の設計）

**人工腎臓用中空糸膜**

・セルロース系の膜による、優れた生体適合性

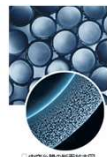
・シェア：グローバル 6%（国内約20%、中国13%、他）

**ウイルス除去膜**

・抗体医薬品の製造工程で、抗体とウイルスを分離する

最終工程に使用。中空糸構造のため、処理量大

・抗体医薬品は、10年間で約3倍の成長市場



## 成長戦略 グローバル・ニッチ・カテゴリーリーダー戦略

### バイオ事業

- 生化学診断薬用原料酵素
  - ・生産能力増強 生産能力約1.5倍（2024年～）、海外展開の拡大
- 感染症ソリューションビジネスの拡大
  - ・遺伝子診断薬原料の新設備 生産能力約3倍（2024年～）
- バイオ技術の他市場への展開
  - ・バイオもののづくり（農業用展着剤）

### メディカル事業

- 海外展開を見据えた、人工腎臓用中空糸膜の増産
  - ・ニプロ株式会社と共同でー貫生産工場（2024年～、秋田県大館市）
- 急性血液浄化膜、プロセス膜への用途拡大
  - ・CART膜（腹水濾過濃縮）、ウイルス除去膜、培地濾過膜
- バイオマテリアル事業の拡大
  - ・合成系コーティング材料（抗血栓）“セックワン”



メディカル研究所の新設  
・総合研究所内（滋賀県大津市）  
・2024年4月8日に開所式  
・メディカル製品の研究開発体制を強化



CTAダイアライザーー貫生産工場  
・ニプロ大館工場内（秋田県大館市）  
・当社は原料から中空糸を製造

### 売上高目標（億円）



### 営業利益目標（億円）



※2025年度見通しは、2024年5月時点（当初計画は2022年5月時点）

21

ライフサイエンス事業の主要製品、成長戦略です。

バイオでは、高機能タンパク質製造技術をベースに、主に遺伝子検査領域、生化学診断領域の製品を取り扱っています。遺伝子検査領域においては、高速増幅、コピーの正確性、夾雑物耐性などの特長を生かしたPCR用原料酵素やそれらを使った研究用試薬、診断システム（診断装置・診断薬）まで取り揃えています。生化学診断領域においては、微生物の遺伝子組換え技術を使った高品質で大量生産された原料酵素をグローバルに展開しています。

メディカルでは、年々増加する透析患者の治療成績とQOLの向上への貢献を目指して、人工腎臓用中空糸膜を提供しています。当社の中空糸膜は、経時劣化の少ない優れた老廃物の除去性能を誇ります。天然素材のセルロースを出発原料としたセルロース系の膜のため、治療中のアレルギー発症が少なく、優れた生体適合性を実現しています。他にも、中空糸分離膜技術を活かして、腹水濾過濃縮膜（CART）、ウイルス除去膜なども扱っています。

今後、バイオでは、生化学診断薬用原料酵素は、2024年度の新設備稼働により、更なる海外展開の拡大を進めます。遺伝子検査用原料酵素は、2024年度の新設備稼働により、感染症ソリューションビジネスの拡大をめざします。また、メディカルでは、製膜技術に強みがあり、その強みを生かして、慢性血液浄化膜に加えて、急性血液浄化膜の市場などに拡大していきます。

## 環境・機能材事業

TOYOBBO

### 主要製品

#### VOC回収装置

- ・高性能な活性炭素繊維を用いたVOC回収装置
- ・工場排水の浄化や回収
- ・EV化に伴うLIB成長市場において、グローバル展開加速



#### “バイロン” “ハードレン”

- ・フィルム接着剤、ポリオレフィン用接着付与剤として使用される樹脂。接着性、耐久性等
- ・LIB、FPCの海外市場に向けて拡販



#### エンジニアリングプラスチック

- ・自動車部品用途が多くを占める
- ・軽量、耐熱性、良外観 等の特長
- ・EV化の動きに応じた、軽量化・高機能化製品の海外拡販



#### 海水淡水化用逆浸透膜

- ・耐塩素性に優れ、微生物汚染を防ぐ
- ・高温高濃度海水の中東湾岸諸国で高品質の生活用水を製造



#### スーパー繊維

- ・“イザナス”：強度、軽量性、耐水性、衝撃吸収性など
- ・“ザイロン”：世界最高レベルの強度と弾性率、耐熱性など
- ・浮体式洋上風力発電用途に展開へ

### 成長戦略 グローバル市場で活躍する新しい機能素材メーカーへ

#### 樹脂・ケミカル事業

- ・エンジニアリングプラスチック
  - ・EV対応、外資系OEM展開
- ・バイロン・ハードレン
  - ・リチウムイオン電池パウチ用途、高速伝送用途（低誘電）
  - ・“Vitrimers”の実用化（電子材料用接着シート）

当社と三菱商事による機能素材分野における合弁会社  
**東洋紡エムシー株式会社**

■ 出資比率  
当社 51%、三菱商事 49%

■ 目的  
当社の製品・技術開発力と三菱商事の幅広い産業知見・経営力の掛け合わせ

■ 事業開始  
2023年4月1日  
環境・機能材事業は「安定収益事業」から東洋紡エムシー(株)により、成長拡大を目指す。

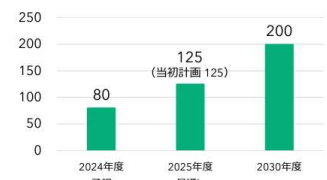
#### 環境・ファイバー事業

- ・VOC回収装置
  - ・リチウムイオン電池セパレータ工場向け
- ・アクア膜
  - ・FO膜（省電力海水淡水化、浸透圧発電）、BC膜（排水処理等）
- ・高機能ファイバー
  - ・洋上風力発電（浮体式）用係留索

#### 売上高目標（億円）



#### 営業利益目標（億円）



※2025年度見通しは、2024年5月時点（当初計画は2022年5月時点）

22

環境・機能材事業の主要製品、成長戦略です。

主要製品として、VOC回収装置、バイロン・ハードレン、エンジニアリングプラスチック、海水淡水化用逆浸透膜、スーパー繊維などがあります。

当社は、三菱商事(株)と機能素材の企画、開発、製造および販売を行う合弁会社として東洋紡エムシー(株)を設立し、2023年4月に事業を開始しました。東洋紡エムシー(株)は、当社の技術力と、三菱商事(株)の総合力を融合し、グローバル市場でさらなる成長をめざします。特に、自動車の軽量化に資するエンジニアリングプラスチック、5G・6G通信の普及に貢献する接着剤・塗料原料などの「モビリティ・電子材料」分野、海水淡水化膜、VOC回収装置、浮体式洋上風力発電の係留ロープに使用可能な超高強力繊維などの「環境ソリューション」分野での成長をめざします。

東洋紡エムシー(株)は、2024年4月、OEMへ直接アプローチして共同開発を進める新組織「モビリティ事業推進ユニット」を立ち上げました。モビリティ業界では、急速な技術革新が起こり、異業種の新興メーカーも台頭するなど、その事業環境は劇的に変化しています。新組織ではOEMの先行開発段階からそのニーズをつかみ、一体となって開発に取り組むことで、より付加価値の高い製品をグローバル市場へ投入していきます。

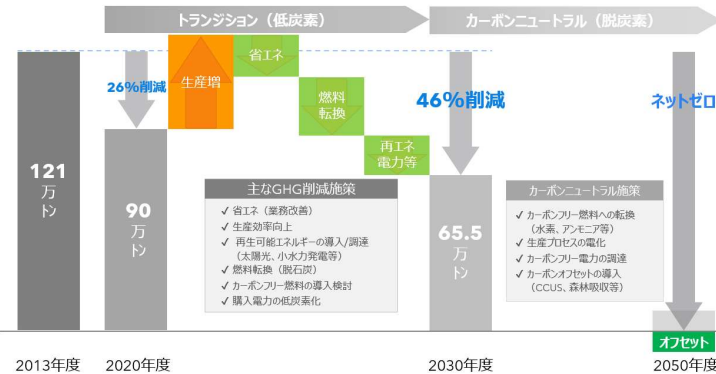
## IV. ESG

- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)

当社のESGに関する取り組みについて、紹介いたします。



## ◆カーボンニュートラルへのロードマップ（Scope1,2）



## ◆GHG排出量削減の取り組み

### ●燃料転換（脱石炭）

岩国事業所の自家火力発電所更新（2023年10月竣工）

- ・石炭から液化天然ガス、RPF\*に転換 \*古紙・廃プラスチック類を主原料とした固形燃料
- ・GHG年間 8 万トン削減見込 → 岩国事業所の2013年度排出量の約4割に相当

### ●再生可能エネルギーの導入

犬山工場に太陽光発電設備を導入（2023年3月 稼働）

|        | 排出量<br>(千トン・CO <sub>2</sub> ) | 2013年度比 削減率       |
|--------|-------------------------------|-------------------|
|        |                               | 2022年度実績 2030年度目標 |
| Scope1 | 712                           | 26.4%             |
| Scope2 | 182                           | 46%以上             |
| Scope3 | 5,290                         | —                 |

## ◆社外評価

- ・GPIFが採用する日本株の6つのESG指数すべての構成銘柄に選定

FTSE Blossom Japan Index  
FTSE Blossom Japan Sector Relative Index  
MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数  
MSCI日本株女性活躍指数（WIN）  
S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数  
Morningstar日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数(除REIT)



2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
ESGセレクト・リーダーズ指数

S&P/JPX  
カーボン・  
エフィシエント  
指数

- ・CDP「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」選定（2021年、2022年）

CDPが実施する企業調査において、企業のサプライチェーン全体における気候変動に対する取り組みを評価  
※CDP:世界的な環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体



- ・SBT認定取得（2022年12月）

GHG排出量削減目標が科学的根拠に基づいた目標であるとして、SBTイニシアチブより認定

<SBT認定を取得した目標>

2030年までにGHG排出量を2020年度比で  
Scope1,2 27.0%削減 Scope3 12.5%削減



SCIENCE  
BASED  
TARGETS

24

当社グループでは、気候変動が当社グループやステークホルダーにもたらす影響の大きさを認識するとともに、「脱炭素社会&循環型社会」の実現を重要なサステナビリティ目標としています。2020年1月に、TCFD（Task Force on Climate-related Financial Disclosure：気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に賛同し、同提言にのっとりた取組みと開示を進めています。

事業活動における温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1, 2)については、2030年度までに2013年度比で46%以上削減することを目標としています。さらに、2050年度までにネットゼロにすることをめざしています。主なGHG削減施策として、燃料転換（脱石炭）、再生可能エネルギーの導入がございます。

燃料転換（脱石炭）の取組みとして、岩国事業所において自家火力発電所を更新し、2023年10月に竣工式を開催しました。燃料を石炭から液化天然ガスおよびRPFに転換することで、同事業所のGHG年間排出量を、従来の4割以上に相当する約8万トンを削減します。

また、犬山工場では太陽光発電設備を2023年3月に稼働し、2022年度の発電量は約50MWhでした。

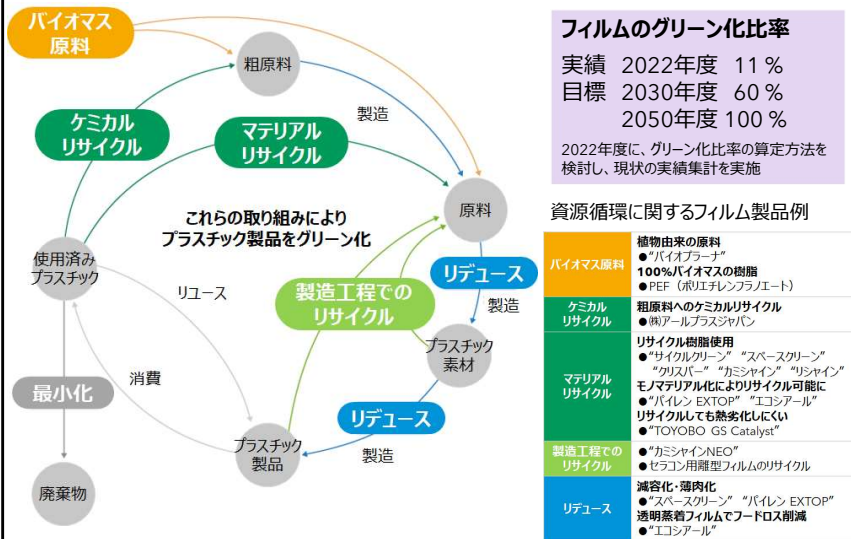
社外評価については、ESG指数の構成銘柄や、CDP「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定されています。2022年12月にはSBT認定を取得しました。

## 環境：プラスチック資源循環と環境配慮製品

TOYOBO

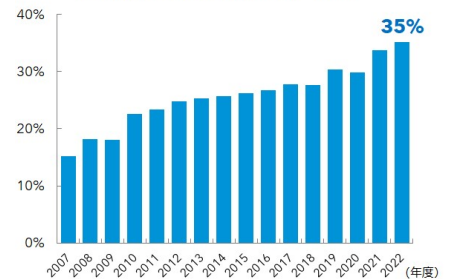
### ◆プラスチックの資源循環に向けた当社グループの取り組み

「サステナブル・ビジョン2030」における2030年 目標「フィルムのグリーン化比率を60%とすること」このグリーン化により、石油由来資源の使用量削減や代替化に貢献



### ◆環境配慮製品

環境配慮製品の売上高比率（単体）



#### “エコパートナーシステム”

5つの視点\*で、評価基準を満たした製品を環境配慮製品と認定する当社独自の制度（1998年より運用）  
今後、本認定制度をグループ会社へも拡大

\*温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質削減、生物多様性・その他



#### 中空糸型逆浸透膜（RO膜）

・海水から淡水を低エネルギーで生産可能  
「蒸発法」に比べて、CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減  
・主原料がバイオマス材

**VOC\*回収装置** \*揮発性有機化合物  
・塩化メチレン、酢酸エチル、トルエンやIPAなどの有機溶剤の排出抑制や回収再利用に貢献  
・独自の活性炭繊維“Kフィルター”内蔵  
高品質の溶剤回収と省エネルギー化が可能

プラスチックは現代社会に不可欠な素材である一方、廃棄物の問題や天然資源の枯渇、気候変動への影響などの課題があり、プラスチック資源循環を促進する重要性が高まっています。

当社グループは主力製品であるフィルムを始めとした多くのプラスチック製品を取り扱っており、資源循環型社会への移行は、事業のリスクと同時に大きな機会となりうると認識しています。2022年には、「サステナブル・ビジョン2030」において、循環型社会に向け当社グループが貢献できることを明確化するとともに、2030年に向けた目標を設定しました。まずはフィルム製品からグリーン化（バイオマス・リサイクル原料の使用促進、減容化、モノマテリアル化）を進めていきます。

当社グループでは1990年代からリサイクルやバイオマス原料の活用に取り組んでおり、さまざまな技術やノウハウを蓄積して、現在まで多くの製品や素材を開発してきました。今後も、3R+Renewableの視点で循環型経済の実現を目指します。

また、当社グループは、1998年より環境保全の観点から製品の環境への負荷度を評価するシステムとして「エコレビュー制度」を運用しています。

この制度では、当社の製品や技術について、原材料から廃棄に至るまでのステージごとに、「温暖化防止」「化学物質削減」「省資源」「廃棄物削減」「その他の環境貢献」の観点で評価を行います。また、一定基準以上の評価を得たものを当社の“エコパートナーシステム”製品として認定しています。

## 社会：人的資本、人権の尊重

TOYOBBO

### ◆人材マネジメント

一人一人が成長を感じ、誇りとやりがいを持って働くことができる

新人事制度（2022年7月～）の4つの方針  
「能力向上を促進・支援」「職責に応じた処遇と評価」  
「マネジメントの強化」「多様な専門人材の活躍促進」

### ◆ダイバーシティ推進

| 項目                   | 2023年度 実績        | 2025年度 目標                            |
|----------------------|------------------|--------------------------------------|
| 管理職に占める女性比率          | 5.5 %            | 5.0 % 以上                             |
| 男性の育児休業取得率<br>平均取得日数 | 97.7 %<br>19.3 日 | 80 % 以上<br>14 日 以上<br>(2020年度比20%増加) |

#### 主要施策

- ・女性リーダー育成セミナー 累計受講者数 189 人
- ・グローバルコースの新卒採用の女性比率40%を継続
- ・男性の育児休業取得本人や上司への通知・休業前後の面談
- ・ベビーシッター支援制度、企業内保育園設置



### ◆従業員エンゲージメント (2021年～)

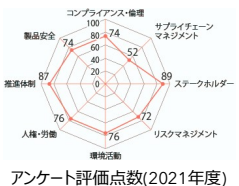
全役員・全従業員対象の「組織風土・働きがい調査」を開始

| 項目             | 2022年度 実績 | 2030年度 目標 |
|----------------|-----------|-----------|
| 従業員エンゲージメントスコア | 55 %      | 70 % 以上   |

### ◆人権の尊重

「東洋紡グループ人権方針」に従い、役員・従業員を始め、あらゆるステークホルダーの基本的な人権を尊重

- 当社グループの人権調査（2022年度は単体）
- ・当社国内事業所（単体）に対し、「労働と人権」調査を実施
- ・外国人技能実習生に関しては、該当事業所に対して、調査を実施
- 人権教育・研修の実施
- CSR調達アンケート
- ・全世界の主要なお取引先さまに対して、リスク評価のため、「CSR調達ガイドライン」に基づいたアンケートを隔年実施（2021, 2023年度）
- ・2023年度の実施では、対象サプライヤーをグループ会社へ拡大（約 500社）



### ◆社外評価

「健康経営優良法人2023 ホワイト500」初認定（2023年3月）

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する制度。特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する

「えるぼし認定（2段階目）」取得（2021年12月）

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍に関する取り組みの実施状況が優良な企業に与えられる

「プラチナくるみん」初認定（2023年7月）

育児と仕事の両立を支援する制度の導入や利用が進むなど、より高い水準の取り組みを行っている企業に対して与えられる



26

続いて、人的資本、人権の尊重に関する取り組みです。

「人的資本」については、「人」こそが最も重要な経営資本と位置づける「人材マネジメント方針」のもと各種施策を実行しています。2022年7月から運用がスタートした新人事制度においては、四つの方針を掲げて実行しています。

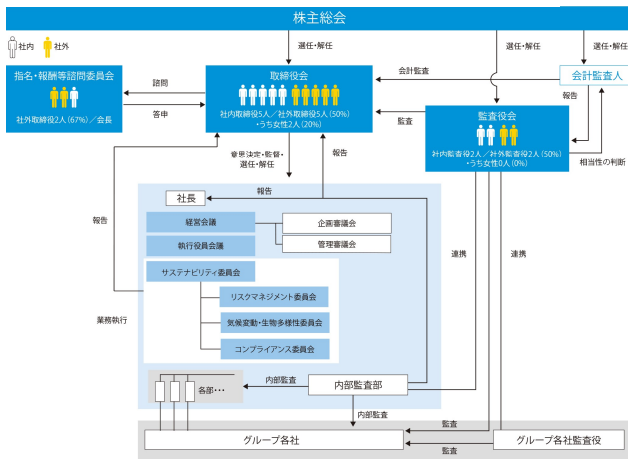
当社グループでは、人事・労務総括部にダイバーシティ推進グループを設置し、2015年から女性の活躍推進活動に取り組んでいます。上司向けセミナー、女性リーダー育成セミナーなどを継続して実施し、従業員の意識改革を図っています。

また、2021年度から全役員・全従業員対象「組織風土・働きがい調査」を開始しました。同調査によって定期的に従業員エンゲージメントの状況を把握し、従業員が誇りとやりがいを持って主体的に業務に取り組める環境を整えていきます。

「人権の尊重」については、外国人技能実習生の就業状況を把握し、特に海外グループ会社において児童労働や強制労働がないことの確認を進めています。また、役員・従業員向けに「ビジネスと人権」に関する研修機会を提供し啓発に努めています。さらに、サプライチェーン全体における人権尊重のため、CSR調達アンケートを通じて、お取引先さまの人権に対する取り組みを評価しています。

社外評価として、「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）ホワイト500」や「えるぼし認定（2段階目）」、「プラチナくるみん」に認定されています。

## ◆コーポレート・ガバナンス体制（2024年6月現在）



## ◆コーポレート・ガバナンス強化への取り組み

- ・2022年より、独立社外取締役を1名増員して5名に  
社外取締役比率50%とし、モニタリングを強化。経営全般のスキル充実
- ・2023年より、女性の社外取締役を1名から2人に増員

## 取締役のスキルマトリックス（2024年6月現在）

| 氏名 | 役職    | 当社が求める経験・素養のうち、特に生かすことができるスキル |          |            |       |       |                      |       |  |
|----|-------|-------------------------------|----------|------------|-------|-------|----------------------|-------|--|
|    |       | 企業経営                          | 生産・技術・開発 | マーケティング・営業 | 財務・会計 | 環境・社会 | ガバナンス・リスク管理・コンプライアンス | IT・DX |  |
| 社内 | 橋原 誠慈 | ○                             |          |            | ○     | ○     | ○                    |       |  |
|    | 竹内 郁夫 | ○                             |          | ○          |       | ○     | ○                    | ○     |  |
|    | 酒井 太市 |                               | ○        |            |       | ○     | ○                    | ○     |  |
|    | 相良 啓仁 |                               | ○        | ○          |       |       | ○                    | ○     |  |
|    | 稲田 武彦 | ○                             |          |            | ○     | ○     | ○                    |       |  |
|    | 磯貝 恭史 |                               | ○        |            |       | ○     | ○                    |       |  |
| 社外 | 桜木 君枝 |                               |          | ○          |       | ○     | ○                    |       |  |
|    | 播磨 政明 |                               |          |            |       | ○     | ○                    |       |  |
|    | 福士 博司 | ○                             | ○        | ○          |       |       |                      | ○     |  |
|    | 高瀬 正子 |                               | ○        | ○          |       |       |                      | ○     |  |

## ◆役員報酬制度

基本報酬：短期インセンティブ報酬※：長期インセンティブ報酬 = 6：3：1 を目安  
 （役別定額部分） （前年度の全社業績評価、担当部門業績評価を反映） （譲渡制限付株式報酬）

※短期インセンティブ報酬

- ・全社業績の指標は、EBITDAを採用（2025中計目標と連動）
- ・担当部門業績評価の指標は、担当部門の営業利益達成度、ROA、EBITDAの改善度などを総合的に勘案
- ・2023年度の取締役会において、サステナビリティ指標を組み入れることを決定（2024年7月より）

27

続いて、ガバナンスに関して、説明いたします。

当社は、取締役会が執行役員による業務執行を監督する体制としています。取締役会による「意思決定・監督」と執行役員による「業務執行」を明確に分離し、迅速な意思決定と効率的な業務執行ができるガバナンス体制を構築しています。

取締役会は戦略的な方向づけや重要な業務執行の決定を適切に行うための専門性・スキルと経営陣に対する監督強化に必要な独立性を備えつつ、職歴・ジェンダー・年齢などの多様性も確保しながら、全体としてバランスのとれた体制とするため、取締役会議長を務める会長、社外取締役および執行役員を兼務する取締役で構成しています。

コーポレート・ガバナンス強化に継続的に取り組んでおり、2022年には社外取締役を1名増員して、社外取締役比率が50%となりました。取締役に期待する専門性・スキルの重要分野として、7分野を特定しています。

役員報酬制度については、2023年6月の取締役会において、持続的な成長やESG等の観点を追求するために、2024年7月からの役員報酬の短期インセンティブにサステナビリティ指標を組み入れることを決定しました。サステナビリティ指標達成係数は、安全・防災関係指標と人的資本関係指標の目標達成度です。なお、2024年7月以降の報酬から適用します。

## V. 株式情報

最後に、株式情報です。



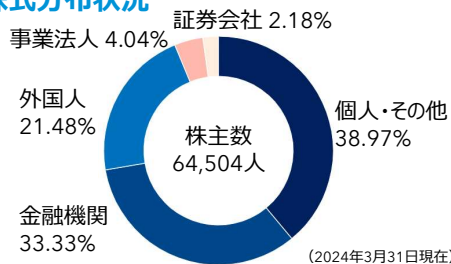
## 株式情報

TOYOB0

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 上場証券取引所   | 東京証券取引所 プライム市場                   |
| 証券コード     | 3101                             |
| 発行可能株式の総数 | 200,000,000株                     |
| 発行済株式の総数  | 89,048,792株<br>(自己株式 949,992株含む) |
| 資本金       | 51,730百万円                        |

### 所有者別株式分布状況

(2024年3月31日現在)



### 格付情報

| 格付機関名                | 発表日        | 格付 |
|----------------------|------------|----|
| 株式会社格付投資情報センター (R&I) | 2024年1月30日 | A- |
| 株式会社日本格付研究所 (JCR)    | 2024年2月27日 | A  |

### 株価の推移 (過去5年間に於ける最高値/最安値)

| 年度      | 2019  | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 最高値 (円) | 1,684 | 1,687 | 1,505 | 1,134 | 1,182 |
| 最安値 (円) | 903   | 1,033 | 1,046 | 979   | 980   |

### 利益配分の基本方針

総還元性向(※) 30% を目安

(※) 総還元性向 = (配当総額 + 自社株買い総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益



株主の皆さまへの利益還元は、企業にとって最重要事項の一つと認識しています。安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行ってまいります。

2024年度は、前年度と同じく、1株当たり40円の配当を予想しています。



## VI. リンク集

ご参考に、説明会資料などのURLをまとめました。

投資家情報 トップページ <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir.html>

✓ 決算説明会資料 <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/presentation.html>

✓ サステナブル・ビジョン2030 [https://www.toyobo.co.jp/sustainability/group\\_sustainability/vision/](https://www.toyobo.co.jp/sustainability/group_sustainability/vision/)

✓ 2025中期経営計画（2022～2025年度） <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/plan.html>

✓ 統合報告書2023 <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

✓ 事業説明会（フィルム、ライフサイエンス、環境・機能材）

<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/meeting.html>

✓ ファクトブック <https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/fact.html>

✓ 会社案内 <https://www.toyobo.co.jp/pdf/company/profile/companyguide.pdf>

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved



© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.

以上で、インベスターズガイドは終了です。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。